各科目概要

★「大学」欄は科目の提供大学・機関を示し、略称「工、府、医、機」は、「工」：京都工芸繊維大学、「府」：京都府立大学、「医」：京都府立医科大学、「機」：京都三大学教養教育研究・推進機構　を示します。

★授業目的区分（○は該当するもの、◎は特に強調するもの）
A：人文・社会・自然の諸分野の学術体系を俯瞰しながらこれらの基礎を幅広く学習し、学術への高い関心を育てる。
B：世界の人々の多様な生き方を感受し、人としての豊かな感性や倫理観を拡張する。
C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟する。

【京都学の特色】
「京都で学びたい」、「京都を学びたい」と思い、伝統のある三大学への進学を希望した学生も多いことでしょう。京都三大学教養教育研究・推進機構では、京都の地域的、歴史的、文化的特色を生かした、「京都学」を開講します。三大学にまたがる学問分野の広さと、各大学の専門性の強みを生かした多様な京都学が提供されます。

【リベラルアーツ・ゼミナールの特色】
リベラルアーツ・ゼミナールは、教育目標に掲げられた「C：日々社会に生起する種々の問題において、真理や正義を探求する議論に習熟すること」に重点を置きます。リベラルアーツ・ゼミナールでは、多様な価値観を持ち志向などが異なる仲間と交流し、様々な問題に関心を持ち、議論する力を高めることを狙いとします。授業は、1クラス30名を上限に、少人数で実施します。

■人間と文化

《人間と歴史》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
哲　学	工	伊藤　徹	後	哲学と呼ばれた知の営みがどのようなものであったのか、西洋哲学の歴史を通史的に見ていくことによって、考える。 具体的に登場する固有名詞を挙げれば、イオニア自然哲学、ディオニュソス教とピュタゴラス教団、パルメニデス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、トマス・アキナス、オッカムのウィリアム、デカルト、カント、ニーチェ、新カント派、ディルタイ、ヴィトゲンシュタイン、オースティンなど。	哲学は、そもそも「知を愛し求める」という人間の基本的な姿勢を意味しています。「愛し求めること」は、答えという終結をもちません。哲学の歴史を振り返ることによって、答えのない問いと、それを問い続けることの重要性を学び、現代に生きる私たち自身の在り方を振り返る機縁としてほしいと思います。	○	○	
比較宗教学	工	長岡　徹郎	前	宗教は人類の歴史において、生活、政治、民族のあり方に至るまであらゆる人間的営為の精神的根幹をなしており、科学万能の現代においてもその死生観や儀礼などの宗教性は人々の日々の暮らしを支えているのみならず、民族間の宗教的対立は絶え間のない国際紛争の温床ともなっている。しかし私たちは宗教をどれほど理解しているだろうか。この講義では、映像や統計など様々な資料を交えながらわかりやすく諸宗教を比較することを通して、宗教についての確かな知識を持つことにより、グローバルな宗教問題に対応する力を養うとともに、宗教理解を深めることを目標とする。	現代において、宗教はどのような存在意義を持ち得るのでしょうか。多くの日本人にとって宗教とは馴染みのないものかもしれませんが、初詣やお盆、クリスマスに至るまで宗教は無意識のうちに我々の日常に溶け込んでいるのです。この授業が皆さんにとって、宗教とどう向き合えばよいか考え直すきっかけになることを願います。	◎	○	
宗教と文化	医	田中　純子	後	14世紀ほぼ60年間続いた動乱の南北朝時代は、社会の各層の人々を否応なく巻き込み、社会や人々に変化をもたらし、多大な影響を及ぼしました。中でも新たに台頭してくる芸能の動きとそれを担う人々、特に名前に「阿弥陀仏」の付く「阿弥」号者の活動は、注目されます。宗教の支配及び加護からぬけだそうとした芸能者は、京都の新たな主人となった足利将軍との関係を深め、更には室町時代の文化創造の一端を担うことになります。授業では、社会の大変革期である南北朝期と次に来る室町時代の社会変化を検討しながら、芸能の発展及びそれを支えた芸能者の活動について考えます。	中世後期に花開いた室町時代の文化は、その後、更に洗練されて現代へと継承され、日本独自の文化とよばれるようになります。能然り、狂言然り、床の間と床の間飾り然り、喫茶然り。現代社会に息づいている日本の文化・歴史を再認識し、中世の人々の思いに触れて、人々の置かれていた時代を感じてほしいと思います。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
日本史	工	鬼頭　尚義	前	高校までに学習してきた日本史は、主に「為政者の歴史」である。もちろん、「為政者の歴史」も事実であるが、それだけが真実ではない。本講では、教科書に載っている有名な「歴史的事項」を別の側面から迫ることで、新たな見方を提供したいと考えている。もちろん、高校で日本史を勉強してこなかった学生の受講も歓迎する。	歴史＝真実だと思っている人にこそ、受講してほしいです。「別の側面」から眺めることで、新たな「事実」が浮かび上がってくるかもしれませんよ。受講生の積極的な意見、教員をある意味「困らせる」ような意見を待っております。	○		
東西文化交流史	工	齊藤　茂雄	後	人や物資の交流が常に盛んだったユーラシア大陸においては、歴史上様々な文化の交流が行われてきた。それは、工芸品や絵画のような物質文化の場合もあれば、宗教や思想などといった精神文化である場合もあり、多岐にわたる。さらには、それらの文化の運び手たちも、様々な経路・目的で異なる地域間を行き来した。本講では、「異文化」同士が接触した際に起こる受容・変容・拒絶・対立など歴史上の様々な反応を、ユーラシア東部地域を中心としてテーマごとに概観していく。	外国人旅行者や外国人労働者の増加を通じて、今後ますます「異文化」と触れあう機会は増えていくと思います。では異質な文化と出会った時、人はどんな反応を見せるのでしょうか。うまく交流できた例も、最悪の結末を迎えた例も、歴史には人類の様々な経験が蓄積されています。本講では、歴史上の異文化交流の数々を最新の研究成果も踏まえて紹介します。これから否応なく国際社会に対応しなければならなくなる皆さんの、考えるヒントになれたら幸いです。	◎	○	
アジアの歴史と文化	府	岡本　隆司	前	中国の歴史は歴史学の標準モデルをなす西洋史や日本史とは、きわだった展開の相違を示す。われわれの常識では一概にはかりしれない現代中国の様相をみるにも、その事情を歴史的に理解するのは不可欠である。 その中国史のうち、14 世紀の後半に興起し、17 世紀の半ばに滅亡した明朝の時代は、現代中国そして日本を含む現代東アジア形成の原点をなす。 本講義では、日本・世界との関係・比較もまじえながら、さまざまな視角から、14 世紀から 17 世紀までの明朝の歴史を概論し、その構造的な理解を深め、現代の中国と東アジアに対する展望を得る。	明代という一つの時代を通して、中国社会の全体について、理解を深めることをめざす。なお授業ではプリント資料を配布し、主に歴史の流れを重点的に講じる。暗記を求めることはしない。 歴史の楽しさを受講生のみなさんと分かち合うことができればと考えている。	○	○	
ヨーロッパの歴史と文化	府	阿部　拓児 渡邊　伸 川分　圭子	後	・古代から近代までの欧米世界の歴史を講義する。ヨーロッパだけでなく中近東やアメリカ世界も対象とし、政治・経済・宗教・文化・社会の諸側面を取り上げる。 ・現代社会の歴史的・文化的基礎を理解することを目標とし、現代の諸問題を多角的に考える力の修得をめざす。 ・高校で世界史Ｂを受講しなかった学生にも学習しやすい内容・レヴェルをめざすが、現在の日本人による研究がどの程度進められているかなどについても論及する。	ヨーロッパの歴史と文化は、現代世界を理解する上で不可欠の知識です。また、数十年、百年、数百年といった時間がたつと社会やものの考え方はどのように変わるのかという長い時間の感覚を持つことも、生きていく上でとても大切です。今の日本の価値観を絶対のものとせず、昔や他の地域の価値観を理解し将来をも見越す力を持つためにも、歴史を学びましょう。	◎	○	

《文化・芸術》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
ラテン語	医	松本 加奈子	後	ラテン語の初歩を学びます。古典語ではありますが、現在でも a.m.(午前) や p.s.(追伸) といった略語、自動車などの機械類の製品名で目にしている語も少なくないでしょうし、何よりも、ヨーロッパ諸言語のルーツを知ることで、英語を初めとする西欧諸言語の習得に役立つだけではなく、アルファベットの羅列に見えていた既習の英単語までもが深みと広がりをもって見えてくる興味深い言語です。 ほぼ全員が初めて学ぶ言語ですので、基礎から学んでいく予定ですが、文法や語彙の単なる丸暗記ではなく、長い時を経て人々が培ってきた文化の一つとして言語の成り立ちを鑑賞することで、言葉そのものに対する興味と知識を増すきっかけとなればと思います。	医学、薬学、化学元素、植物名、美術、宗教、文学 etc. (ちなみに etc. もラテン語です) と、理系文系を問わず様々な学術用語の基礎であるラテン語を、様々な専攻分野の皆さんが集まって学習できる機会を楽しみにしています。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
西洋文化論	工	山下　太郎	後	古今東西という言葉がある。我々は東洋の今を生きている。そんな我々にとって一番なじみの少ないのが西洋の古典文化ではないだろうか。当時の人間が残した言葉は、今も欧米人の心の琴線に触れる価値を持つ。では、我々はどう感じ、どう思うだろう。異文化はおのが文化を照らし出す鏡である。 西洋古典文化を代表する名言を手がかりにして、今を生きる我々にとって価値ある指針とは何かを探りたい。	予備知識は前提としない。強いて言えばギリシア神話に関心があればと願う。心の目を大きく開けて、ピンとくる「何か」との出会いを楽しみにして欲しい。	○		○
日本文学Ⅰ	医	早川 久美子	前	日本文学は、様々な内容を多様な表現方法を駆使して創作されている。この講義では、〈 女主人公 〉の「祈り」、「執心」、「怪異」をキーワードにして考えてゆく。取り上げる作品は、各時代の、いろいろなジャンル（説話・王朝物語・説経・演劇・浮世草子・読本・芸能）から選ぶ。作中人物の行為としての「祈り」は、我々にとっても「現実」（実際に体験できるのだという感覚）を見出しやすい。「執心」や「怪異」は、本来は忌避されるべきものであるが、やはりそこにも「現実」を感じとってしまうであろう。実際にテキストを音読し、あるいは関連する他の作品と比較することによって、作品の価値を吟味しつつ、そのような「現実」を享受することを目的としたい。	作者に興味を持ち、繰り返し音読してゆけば、とっつきにくい古典文学も、次第に「わかる」ようになってきます。兼好法師は、『徒然草』第 13 段で、「ひとり燈のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなうなぐさむわざなる。」と述べています。私たちも古人のこころにふれつつ、作品を享受できればと考えています。	◯		
日本文学Ⅱ	医	早川 久美子	後	日本文学は、様々な内容を多様な表現方法を駆使して創作されている。この講義では、〈 男主人公 〉の「祈り」、「執心」、「怪異」をキーワードにして考えてゆく。取り上げる作品は、各時代の、いろいろなジャンル（説話・王朝物語・軍記物語・演劇・浮世草子・読本・芸能）から選ぶこととする。作中人物の行為としての「祈り」は、現代に生きる我々にとっても「現実」（実際に体験できるのだという感覚）を見出しやすい。「執心」や「怪異」は、本来は忌避されるべきものであるが、やはりそこにも「現実」を感じとってしまうであろう。実際にテキストを音読し、あるいは関連する他の作品と比較することによって、作品の価値を吟味しつつ、そのような「現実」を享受することを目的としたい。	作者に興味を持ち、繰り返し音読してゆけば、古典文学も「わかる」ようになってきます。手塚治虫は、「君たち、漫画から漫画の勉強するのはやめなさい。一流の映画をみろ、一流の音楽を聞け、一流の芝居を見ろ、一流の本を読め。そして、それから自分の世界を作れ。」と述べています。私たちも一流の作品を学んでゆきましょう。	◯		
日本近現代文学	工	佐藤　貴之	後	「文学」というと真面目で堅苦しく、重厚なイメージがつきまとう。しかし実は歴史上、文学には人を愉快に笑わせる滑稽の要素や、社会の諸問題を笑い飛ばす風刺の要素が多く含まれてきた。 本講義では、日本の近現代作家の作品を通して、文学と〈笑い〉について考えてみたい。作家たちは文学を通して、どのような〈笑い〉を読者に与えようとしたのか。そこには当時の社会や文学の風潮も関係している。 具体的には明治の文学作品からはじめて二葉亭四迷・夏目漱石・井伏鱒二らの小説を取り上げながら、〈笑い〉についての西洋の理論も適宜紹介する予定である。それらを通して、現代の我々が生きる上で〈笑い〉がもちうる多様な意義について考えたい。	〈笑い〉といっても、テレビや舞台で目にするいわゆる「お笑い」に限らず、文学においては、ユーモア・風刺・ナンセンス・パロディなど、様々な手法や方向性が考えられます。 先人の考え方、実際の苦労や失敗にも触れながら、〈笑い〉という概念の広大さと、文学を読む上での多様な可能性を感じてほしいと思います。	◯	◯	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	B	C
西洋文学論	工	山下　大吾	前	ホメーロスの『イーリアス』『オデュッセイア』という二大叙事詩に端を発するヨーロッパ文学。それは今日まで、その最高の模範に戦いを挑むかの様に、各時代各地域の様相を彩り、映し出しながらも、同時に普遍的価値をも併せ持つ古典的な作品を数多く生み出しており、21 世紀の現代日本に生きる我々をも魅了してやまない。 本講義では、ギリシア・ラテンの西洋古典に由来する汎ヨーロッパ的な統一性、並びに聖書に基づくテーマに留意しつつ、その主要作品の内容、およびそれらに備わる特徴や創造的側面を概観する。合わせて漱石や鷗外、二葉亭など、我が国の文豪の残した作品や批評、翻訳などに見られるヨーロッパ文学に関する言葉を手掛かりとした紹介を試みたい。	西洋各国の文学作品を根底から支えている philology「ことばに対する愛」は、洋の東西を越え、人間の有する本源的な力と言ってよいでしょう。その力を皆さんと共有し、再確認する場になればと考えています。意欲的な学生の参加を期待しています。	◎	○	
文芸創作論	医	藤田　佳信	後	講義に参加し文芸作業（読む＆書く）をしながら、1）問題意識・方法意識を高め、2）創作態度と技法を身につけ、3）自分自身の思いを主体的に表現し、4）他者に向かって発信します。4）の目的は、自分が何を表現したのか確認するためです。ひとに見てもらい評価してもらって初めて、自分が何を表現したのか確認できます。 最終目標として、オリジナルな作品３編（聞き書きエッセイ・紀行文・読書感想文）を創作し提出します。	近代日本の文芸について学びながら、読む＆書くの文芸作業をします。色々な文章を読み、「書く」のに何が大切なのか考え、受講生自身の思い（考え・意見）を、他者に向かって発信する創作態度と技法を身につけます。自己の思いを積極的に表現しましょう！		○	
美と芸術	工	三木　順子	前	Art という語は、「芸術」とも「美術」とも訳される。このことからもわかるように、一般に美と芸術は深い結びつきをもつものとみなされてきた。だが今日、美と芸術は、必ずしも相互に関連するものではなくなっている。 この講義では、もはや「美しい」という形容詞では説明できなくなった芸術の諸相を明るみにだすとともに、芸術と乖離した美が、今日、どのような場でどのような意義と課題をもって現象しているのかについて考察する。	私たちは、展覧会やコンサートを自由に選び、好きなようにアートを楽しんでいます。しかし、このような気ままな芸術体験の次元から一歩踏み出し、より根本的に、なぜ人間は美や芸術を必要とするのかに目を向けるとき、芸術は、たんなる趣味の対象ではなく、学問の対象として、新しい姿で立ち現れてくることになるでしょう。	○	○	
日本近代精神史	工	伊藤　徹	前	人間は、世界と自己に関するイメージを組み立て、それに即して生きていく。人間の支えとなるこのイメージは、歴史とともに変動し、ときとして壊滅的な崩壊さえ経験する。明治維新以降近代化の歴史を歩んだ日本人の精神生活のなかに刻まれたそうした変動と崩壊の軌跡を、芸術家や知識人が残した作品やテクストから読み解く。具体的に扱う対象としては、高橋由一、岸田劉生、岡倉天心、浅井忠、岡本太郎、寺山修司などを考えている。	近代化は、人間のあり方を大きく変えたものであり、その変化は現代に生きる私たちの思考や感情にまで繋がっている。夏目漱石は、「片付かない」という言葉でこうした運動を性格づけたが、「終わりのない」近代を考えることは、私たち自身の生を顧みることでもある。本講義では、美術作品や文学などを通して、人間存在の基盤の反省に向かう生きた思想の息遣いを感じ取ってもらいたい。	○	○	
フランス語圏の文化とジャポニスム（2 回生以上）	工	吉川　順子	前（午前）	日本とヨーロッパの交流は宣教師が渡来した 16 世紀に始まり、鎖国を経て、本格的には 19 世紀半ばに日本が開国したことによって急速に発展した。とりわけフランスを中心に欧米諸国で「ジャポニスム」という日本文化の影響を受けた芸術運動が巻き起こり、美術・音楽・文学など様々な分野に広がった。本講義ではこのジャポニスムの多彩な事例を具体的に分析しながら学ぶ。また、その背景にあったフランス語圏の文化や言語に関する知識も身につけ、日本の文化の特徴や価値も振り返る。 ※ 2 回生以上を対象	ジャポニスムを学びながら、現代の私たちにも通じる、自国の伝統と異文化摂取の間に生まれる新たな文化の豊かさや、異文化交流のあり方、異文化接触にまつわる諸問題についても考察を深めましょう。また、個々の関心に基づき、日本の様々な文化が世界でどのように知られてきたか、今どのように理解されているかも調べてみましょう。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
映画で学ぶ 英語と文化 （3 回生以上）	府	出口　菜摘	後（午前）	この授業の目標は、映画を通じて英語のリスニング・スピーキング能力を向上させることと、欧米の文化と社会を学ぶことである。アメリカの NY が舞台である「ファッションが教えてくれること」をテキストに用いて、社会・人間関係の状況を英語で理解するとともに、生きた英語表現を身につける。期間中に 4 回の小テストをおこなう予定。 ※ 3 回生以上を対象	今日の世界を理解する鍵を、映画の中に見出してください。セリフや歌にこめられた意味は何か、実際に発音して分析し、議論しましょう。名作映画を題材に気づいたことを受講者同士でディスカッションしましょう。面白さは細部に宿る！		◎	
映画で学ぶ ドイツ語と文化 （3 回生以上）	府	青地　伯水	前（午前）	授業の前半 8 回は、映画『点子ちゃんとアントン』を見ながら、そのシナリオを読みます。詳細にドイツ語を見ていくことによって、読解力と聴解力を向上させます。 また後半の 7 回は、戦後ドイツ社会の問題を掘り下げるドイツ映画『トンネル』、『バーダー・マインホフ』、『スペシャリスト』、『革命の子どもたち』といった映画の一部を見て、大戦からのちの 20 世紀ドイツの歴史における重要な局面について考え、討論をします。 ※ 3 回生以上を対象	すでにドイツ語の基礎を学んだ人が、さらにステップアップするための授業です。ドイツ映画になじみのない人も、この機会にぜひその面白さを発見してください。映画のドイツ語を聴いて、シナリオを読んで、使える表現を身につけましょう。また、受講者同士の議論を通じて現代世界を理解する糸口が見つかるでしょう。		◎	

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の歴史Ⅰ	府	菱田　哲郎 ほか	前	原始・古代から中世に至る京都の歴史を概観し、都がこの地に置かれるまでと、その後の展開過程について述べる。 取り上げる時代は現代からは遠いけれども、今日の京都が形成される基盤を考えることは重要である。京都盆地がどのような地域的特色をもっているのか、そこがいかにして首都となったか、あるいは、そこで展開した政治や社会、文化の特徴はどのようなものか、具体的な事例をもとに論じる。 ３人の教員が歴史学（文献史学）や考古学の立場からリレー式で担当する。	この授業では、中世までの京都に関する諸事象のなかから、重要と思われる事柄の正確な理解をめざしますが、個別的知識の寄せ集めに終わらせないようにします。 それぞれの時代の京都の歴史的特徴をどのように捉えればよいか、一人一人が考えてほしいと思います。	○	○	
京都の歴史Ⅱ	府	小林　啓治 藤本　仁文 上杉　和央	後	「都市京都の展開」　近世・近代京都の、都市としての展開をさまざまな角度から考察し、現代京都の特質を歴史的に理解する。	近世から現代にいたる京都の歴史をまんべんなく扱うのではなく、対象となる時代の京都を規定している要素にポイントを絞って解説していきます。時の権力・権威と都市京都がどのように結びついていたのか、といった観点から考察を深めてほしいと思います。	○	○	
京都の文学Ⅰ	府	安達　敬子	前	日本の古典文学の主たる舞台となった京都、特に平安京について文学作品を題材にして様々な視点から考察する。具体的には平安時代から室町時代までの散文作品に現れる平安京や洛外の地名の持つ歴史的・文学的イメージの蓄積を探求する。	授業にはできる限り出席してください。 授業の中で多くの書物を紹介しますので、できる限りそれらを読むことに親しんでください。	○	○	
京都の文学Ⅱ	府	本井　牧子	後	文化は、ことばなくして形成されず、ことばなくして歴史を語ることは不可能である。古典的文化を基盤として展開してきた京都の文化は、さまざまなことばによって語られた物語の蓄積であるといってもよい。この授業では、京都を舞台とする説話を取りあげ、読みすすめながら、そこに描かれる場所、人、モノ、コトがどのように語られ、意義をあたえられてゆくかをみてゆくこととする。	授業の中でさまざまな作品や書籍を紹介しますので、できる限りそれらを読むことに親しんでください。また、授業でとりあげる以外の場所を舞台とする作品についても、自分自身で調べてみるなど、興味関心を広げてほしいと思います。	○	○	

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京の意匠	工	並木　誠士	後	明治維新以降、京都の美術工芸界、伝統産業界は、さまざまなかたちで近代化に直面する。そして、美術学校の設置、博覧会の開催、図案教育などにより京都は近代化に対応しようとする。近代の京都を、美術工芸や意匠の側面からできるだけ事例、作例に即して考えてみたい。	自分たちが学びの場として選んだ京都というまちとそのさまざまな活動についての知識を身につけてほしい。京都というと、古いお寺や神社のイメージが強いが、明治時代以降の近代にも多くの魅力的な「意匠」が生み出されているので、そのような近代の京都に触れる機会になればと思う。	○	○	○
英語で京都 (3 回生以上)	府	山口 美知代	後	概要：京都府立京都学・歴彩館の「記憶アーカイブ」の資料を紹介する日本語ウェブサイト「資料ガイド」の内容を英訳します。歴彩館の協力を得て、資料を閲覧します。3 回生以上対象。	京都に関連する資料の説明を英訳するためには、単に逐語的に訳すだけではなく、英文を読む読者の理解の助けになるような情報を補い、また、場合によっては日本語原文の内容を取捨選択する必要が出てきます。こうしたことを考えながら、京都について英語で発信する作業に取り組みましょう。		◎	○
資料で親しむ 京都学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧京都学・歴彩館ゼミ) (2 回生以上)	機	藤本　仁文 ほか	後 (午前)	リレー講義・ゼミにより、京都学・歴彩館所蔵の古典籍・歴史資料・絵図・指図・行政文書などを使用しながら、その扱い方や活用法について学ぶ。 目標 京都学・歴彩館所蔵の古典籍・歴史資料と、講師の専門的知識・経験を活かして、少人数でのアクティブラーニングを行う。受講者が多様な資料とその活用法について知り、実見・解読することによって、資料価値を実感し、学びの地平を広げることを目指す。 ※ 2 回生以上を対象	歴彩館所蔵の古典籍・歴史資料を、専門家ならではの着眼点や切り口で見て触れて学びます。実物を用いながら文学・歴史・行政・建築学など多角的な視点で学んでいき、これまで身に付けてきた知識の総合化・体系化を目指します。		○	○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代イスラーム 世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅥ)	機	田村 うらら	集中・夏	世界三大宗教の中でイスラーム教は、信者数を着々と伸ばし存在感を強めており、日本でも近年特に東南アジア出身者などのムスリムと直接接触する機会が増加している。しかし元々日本人にとって馴染みの薄い宗教であるうえ、9.11 以降の偏向した欧米メディアによる情報も加わり、イスラームに対する誤解は強い。 本講義では、ごく基礎的なイスラームに関する知識に加え、トルコ等中東諸国を中心に現代イスラーム世界の文化と社会について学ぶ。	今後、ムスリムとのつきあいの機会は必ず増えます。イスラームや異文化理解に興味のある人だけでなく、専門から遠く事情に疎い学生諸氏の積極的な受講を歓迎します。学部時代こそ、多角的な視点に親しみ、解が一つでない諸問題の議論に習熟する好機です。講義とディスカッションを通して世界を見る力を鍛えてみませんか。		◎	○
感性の実践哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅦ)	機	桑子　敏雄	集中・夏	環境からの刺激を受け止め、解釈し、さらに環境に創造的に作用する能力を「感性」と捉えることができるとすれば、京都という地域空間の構造と履歴には、この地に生きた人々の感性的経験が蓄積されていると考えることができる。本講義では、空間の構造・空間の履歴・人びとの関心・懸念を総合的に捉える「ふるさと見分け」の方法によって、京都の地域空間を実践的に捉え、その感性的価値を考えてみたい。	日ごろ見馴れた風景のなかに自己の存在と自己の生が営まれる環境との関係を見出すための知的なトレーニングです。学生諸君には楽しみながら、新たな知の発見を経験していただきたいと思っています。		○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
科学と思想 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧科学と思想)	工	林　哲介	後	西欧古代以来の歴史において、学問・科学の誕生と発展は、社会思想や哲学の歩みと深く関わっている。思想や哲学の展開が学問や科学を生み、また学問・科学の発展が思想や哲学の新たな展開をもたらす。そして言うまでもなく、両者は産業・経済・社会の動態さらには宗教とも密接に関わっている。この授業では古代ギリシャ以来の西欧における社会思想・哲学と学術の歴史から、代表的な事象を取り上げ、科学・思想と社会の変転の相互作用を検討する。そして、近代社会の到達点と日本の近代化を比較・分析し、現代社会の課題を考察する。	ここで「科学」と呼んでいるのは自然科学だけを指しているのではありません。社会思想と学問の発展を中心にして歴史を科学的に分析します。思想と学術の歴史を概観すると現代社会の到達点と課題の理解が深まり、そして自己のアイデンティティ（思想）の形成につながります。各回のテーマ・課題ごとに示された資料を参考にグループ討論を行い、まとめを分担し発表します。密度の高い内容ですがインパクトのあるゼミナールです。		○	◎
資料で親しむ京都学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧京都学・歴彩館ゼミ) (2 回生以上) (再掲)	機	藤本　仁文 ほか	後(午前)	※ 科目概要と学生へのメッセージについては、科目群「人間と文化」の「京都学」を参照のこと。			○	○

■人間と社会

《社会科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人文地理学Ⅰ	医	古関　大樹	前	地理学は，地球表面上で起こる諸現象を研究する学問であり，人文・社会現象の観点から地域を観察する人文地理学と，自然・環境の観点から地域を観察する自然地理学に大別される。人文地理学の専門分野は，都市，農村，人口，社会，産業，経済，歴史，文化などに分かれている。前期は，身近な京都や近畿地方を中心に取り上げ，地域の成り立ちの捉え方や歴史・文化・社会に関するトピックスを学習する。人文地理学では，「地域」という概念を重要視するが，これは，自然・環境・歴史・文化といった様々な要素が複雑に関わって成り立っている。「地域」やそこに写し出された「景観」は，時間の経過とともに姿を変化させている。講義を通して，地域の成り立ちや諸要素の関係性を考える力や，地域を読み解く力を養うことを目的とする。	高校までの地理は，地名や単語を覚えることが中心で，暗記科目と捉えられがちです。しかし，ひとたび社会に出てみると，社会生活を送るうえで非常に重要な学問だったんだ！もっと地理学を学んでおけばよかった！という声をよく聞きます。地理学は，地域を構成する様々な要素の関係性を考えることを重要視します。大学生活を送る京都や近畿地方がどのように成り立っているか？全国の地域はなぜ異なる特徴を持っているのかを考えてみましょう。	◎	○	○
人文地理学Ⅱ	医	古関　大樹	後	後期の授業では，前期で扱った歴史・文化・社会などのトピックスに加えて，経済活動や産業構造，自然や環境といったテーマにも関心事を広げ，地理学的な考え方を総合的に身につけることを目的とする。前期･後期の授業を通して，人文地理学における基本的な考え方や，地域社会が構成されている仕組みを総合的に学習することを目的とする。また，講義は演習を取り入れながら進め，地図や資料の読み方なども身につけることを目的とする。	後期の授業では，現代社会の産業構造や人と自然のかかわりなど，より総合的に地域に関するトピックスを取り上げます。講義中では，地図や写真の観察，グラフや資料の読み方などに関する実習も行います。様々な情報の整理・説明の仕方を学習できる機会を作るので意欲的に取り組んでください。	◎	○	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
社会学Ⅰ	府	井口　暁	前	本講義では、社会学に共通する「ものの見方」（社会学的想像力）を習得し、「社会的動物」としての人間の習性と社会の成り立ちを捉え直すことを目指す。扱うテーマは、集団行動の力学、自由と支配、社会的役割と演技などである。映像鑑賞とグループ・ディスカッションを交えるため、積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。講義を通じて、私たちの「当たり前」や「常識」を問い直し、身近な諸問題に対する新たな見方と「処世術」のヒントを、社会学から得ることを目指す。	講義だけで社会学の内容を理解することは難しいです。新聞を読んだりニュースを見ることはもちろん、少し難解な社会学の「古典」にトライすることも重要です。また、日常のふとした違和感や疑問に対して深く考えてみることも大切です。 グループ・ディスカッションを交えるため、積極的に発言してもらいたいです。	○	○	○
社会学Ⅱ	府	山本　めゆ	後	本講義は前期に開講される「社会学Ⅰ」に引き続くものであり、「社会学Ⅰ」を受講していることが望ましいが、本講義を単独で履修することも可能である。 本講義では、私たちが生きているこの時代（近代あるいは現代）とはいかなる時代なのか、現代社会はどのような問題を抱えているのかといった問いについて、社会学的に思考することを通じて、問題解決の糸口を探ることを目指す。なかでも具体的な考察対象として、前半は都市や地域社会、後半は家族やケア労働の問題を扱っていく。映像鑑賞とグループ・ディスカッションを交えるため、積極的・主体的な学修態度で授業に臨んでもらいたい。	日常生活のなかで湧き上がる疑問や違和感は、社会学的な探究の源になります。より良い社会を構想するために、社会学の知識をぜひ活用してください。 グループ・ディスカッションやそれに伴うグループ発表の機会もあります。意欲的な学生の参加を期待しています。	○	○	○
政治学	工	竹本　知行	後	政治学の基礎知識を得ることで政治を見る「目」を養う。人間の社会が存続する限り、「政治」なるものは消えることはない。では、我々が付き合わざるを得ない「政治」とはどのようなものなのか、そして、我々はそれにどう向き合っていけばよいのだろうか。 本講義では、テキストを中心に以上の問題について考察を進めつつ、適宜、指定した参考文献なども用いて、先人が政治とその諸テーマについてどのように考えてきたのかについての理解も深める。	「人間は政治的動物である」（アリストテレス）とは、しばしば引用される言葉であるが、彼の時代から 2500 年を経た今日でも、人間は協調と共同と競争に生きる「政治的動物」であることをやめていない。 講義では様々な問いを投げかけていきたい。それについて考えることを通じて、人類史を貫く「政治的」営みに接近してほしい。	○		◎
国際政治	府	依田　博	前	① 今世界で何が起こっているのかを知る手掛かりとして、現代の主要な人類的課題としての国際問題をとりあげる。② 近現代の国際政治は、国家間の対立と協調という二つの極の間を揺れ動いてきた。今日の状況は、対立に、それも 2 極や多極ではなく、「無極」化した対立の時代にあるともいえる様相にある。無極化の時代において、人類的課題としての主要な国際問題を世界はどのように対処できるのであろうか、これについて理解を深める。③　さらに、問題への対処能力の多くを動員することができる主権国家、主権国家を構成単位とする国際機関、近年ますます存在感を強めている非政府組織は、非国家的勢力の行動を理論的に理解する。	毎日、新聞を読む、あるいはインターネットでニュースをチェックする習慣を身につけてください。ニュースをチェックすることは、授業の予習・復習にもあたります。時事問題に関心を持つことなく「政治」を理解することは不可能です。	◎	○	○
経済学入門	工	人見 光太郎	後	経済学とは、人間や企業が経済的な誘因に対してどのように行動し、その結果として経済システムがどのように働くかを分析する学問です。 この授業ではトレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配という現代経済学の中心概念をもとに経済学の基本的な考え方と分析の方法を学びます。	経済に関した問題では立場の違いにより極端な議論が行われる場合がありますが、できるだけ客観的な事実に目を向けるようになって下さい。	◎		
法学	工	北村　幸也	前	法を対象とする学問である「法学」の特質は何か？　法を扱うプロフェッショナルである「法律家」の思考様式はどのようなものか？　そもそも「法」とは何か？ 以上のような問いに、なるべく様々な観点から取り組んでみたいと思っている。	この授業は、「科目の概要」に掲げた問いに対する「答え」を親切に分かりやすく教えるものではありません。 むしろ、学生のみなさんには、そのような問いに取り組む法学者の苦しい思考の過程を、冷たく分析することができるようになってほしいと思います。	○		

《人間と社会》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
生活と経済	府	小沢　修司	後	経済（＝生活の営み）の仕組みを知ることは私たち自身が社会の主人公になる上で欠かすことができない。にもかかわらず、「経済学」には私たちの生活とは縁遠い難しい学問とのイメージがつきまとう。なぜ、「経済学」は日常の生活、暮らしから離れていったのか、「生活と経済」の切り口から経済学の特有なものの見方、考え方を平易に解説しながら、経済学の人間的再生を目指す。	大学での学習では２つのことが大切です。１つは「常識を疑う」こと。もう１つは「何故？」と問いかけること。授業では、みなさんが「当たり前」と思っているいろいろな考え方や観念を突き崩していきたいと思っています。 考え方の「再構築」にあたっては、「生き生きとして現実感覚」で「古典」を学習することが有効です。	○		○
心理学	工	大谷　芳夫	前	本講義で取り上げる主な内容は、心理学のうち実験心理学と呼ばれる分野に属するものである。実験心理学は、人間の心の働きを科学的に解明し、その法則を明らかにしようとする学問である。実験心理学が対象とする範囲は多岐にわたっており、医学、生理学、情報科学など様々な学問分野とも密接に関係している。 本講義では、心の働きの基本的な側面である、視覚（ものを見る働き）・記憶（ものごとを覚える働き）・学習（環境に合わせて行動を変化させる働き）の機能を取り上げ、基礎的な現象や知識を紹介するとともに、実験心理学の方法論や考え方について解説する。 また、これらの心理学的機能を支える、眼や脳の生理学的機構についても紹介する。	「「こころ」とはなにか」という問いは、人間にとって根源的な問題です。実験心理学は、この疑問に科学的な方法で答えを得ようと取り組んできた学問です。皆さん一人一人が持っている「こころ」について、現在の科学はどう答えるのか・答えられないのかについて知り、自分自身を見つめ直すきっかけとなればと思っています。	◎		
発達心理学	医	小川　恭子	集中・夏	発達というと子どもから大人になる過程をイメージするかもしれません。しかし心理学では，その時期だけではなく「人は生涯にわたって発達するもの」と考えられています。短い期間に大きな成長がみられる乳幼児期・児童期，大人になる心理的・社会的変化を感じる青年期，大人になってからの成人期・高齢期等，それぞれの時期について研究が進められています。 このような人間の生涯にわたる発達について，心理学的側面を中心に学ぶことを目標とします。発達心理学の諸理論を概観し，人生の各時期の発達課題や起こり得る問題，環境との相互作用等について学び，理解を深めます。	心理学では科学的な手法を用いて現象を明らかにしようとします。しかし，人のこころについて 100％正解といえることはなかなかありません。そんな学問に取り組むのは難しく興味深いことです。自分自身で考えようとすることがその後に生きてくると思います。	○	○	
現代社会と心	府	石田　正浩	後	私企業であれ、公的組織であれ、良くも悪くも組織と関わらずいられないのが現代社会の特徴である。組織心理学は、そのような組織における人間の心理・行動を研究する学問領域である。組織がその構成員に期待する貢献と構成員が組織から期待するものを一致させることは難しく、さまざまな問題を産みつつ、現実の組織は動いている。本講義では、組織心理学が蓄積してきた適性・モチベーション・自己制御・コミットメント・リーダーシップ等についての知見を知ることを通して、組織を生きる人間の心理学的・行動学的特徴を理解し、自らのキャリア（職業人生）を考えていく上で有用な心理学的な視点を獲得することを目的とする。	自分が所属するゼミやサークル、アルバイト先といった集団も組織です。授業内容はそこでの自らの体験と直接関連します。授業内容を自分にあてはめてみて理解を深めたり、学んだ知識を実際に応用してみて、理論の切れ味や切れなさを体感するようにしてください。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
現代社会とジェンダー	府	中根　成寿 ほか	前	公正な社会の実現に向けて、すべての人をとりまく社会・文化の歴史や現状、制度や政策について受講生が理解できるようになるのが目標です。「ジェンダー」は重要な変数の一つではありますが、必ずしも性差だけを扱う講義ではありません。自分も含めた全ての人の人権について、積極的に関心を持ち続けることの導入の講義です。 内容構成の柱は、大きく３つに分けられます。一つは、人類の歴史をジェンダーの視点から捉え直すこと。二つ目は、ジェンダーをめぐる制度・政策について、国内外の条約や法律、社会政策等からその到達点や課題を考察します。三つ目は、言語や文学、心理学、教育などがジェンダーを生産・再生産するという問題等を考えます。 授業の方法としては、主には講義形式に依りつつも、最終講義は学生からのアンケートに答える形で、講義担当者全員による討論会形式によって行い、受講生と講師団との「対話的学習」を実現したいです。	ジェンダーは、聞いたことがあるけどよくわからない言葉・概念かもしれない。なかには、「女性差別の問題である」とだけ理解しているひともいるかもしれない。近年注目が集まるSOGI（性的指向・性自認）も扱いますが、ジェンダーは社会の構造を構成する要素の一つであり、諸科学（自然科学・人文科学・社会科学）にとって、すでに「当たり前に考慮にいれるべき要素」として定着しています。自分が自由に行動し、思考しているように思えたとしても、全員が社会からの影響を受けています。この講義の履修を終えたとき、ジェンダーという概念は、あなたの「日常」となり、社会や人間の見え方が大きく変わっていることでしょう。	○	◎	○
現代教育論	工	塩屋　葉子	前	我が国の近代公教育は、明治維新の「学制」発布に始まる。この時、我が国は歴史上類を見ない程の大きな教育改革を果たすのだが、同時に、学歴社会や受験競争など、解決を急務とする多くの教育問題の発端もここに求めることができる。その後、幾度かの大きな教育改革に迫られ今日に至るのだが、本講義では、特に現代の教育改革に焦点を当て、その実態を明らかにするとともに、今後の課題を考察し、我が国の教育の在り方を展望する。	みなさんは今、学校教育の最終段階で学んでいます。この時点において、自分がこれまで受けてきた学校教育とはどのようなものであったのかを振り返り、そして、これからの教育について展望することは、発展的な自己形成を図っていく上で有意義なことだと思います。教育について、一緒に考察していきましょう。		○	○
食環境をめぐる国際社会と日本α (旧食環境をめぐる国際社会と日本)	府	宗田　好史	後	京都府立大に2019年４月に開設された文学部和食文化学科に関連して、世界の食文化の多様性と国際社会が抱える食と農業、そして環境と健康の様々な課題を学びます。また、世界の現状と比べて、日本の食生活、食糧生産、食品産業など様々な問題を学び、オーガニックやスローフード運動を学びます。FAOなどの国際機関、農水省や京都府などの農業政策の立場も紹介しつつ、人間の生存に欠かせない食を、現代社会の重要な課題として取り上げ、その課題解決のための方策について学びます。	食糧と食を巡る国際環境は、人間が生きていく上で最も重要なことです。とはいえ、貧困と飢餓や環境破壊と健康被害など様々な問題を抱えています。その会稀有には、農学や栄養学だけでなく、文化政策や工学、生命科学全般からの取組みが求められています。この授業の学びで、皆さんがそれぞれの専門分野で今後取り組むことになる関心領域や研究テーマを見つけ出して下さい。			○
環境と法	工	須田　守	後	本講義の目的はふたつです。(1) 現代社会の重要論点たる環境問題に対処するための、法的なしくみを学びます。(2) これを通じて、法律学の基本的な考え方を具体的に習得します。 社会問題を解決するアプローチにはさまざまなものがありますが、そこで「法」は重要な役割を果たしています。「持続可能性」への取組からは、裁判の場面に限られない、政策実施手段としての法の様々な側面も明らかになるでしょう。 授業ではいろいろな環境問題およびそれへの法的対応に触れますが、そのうちひとつかふたつをピックアップし、じっくり向き合うことも予定しています。そこでは実際の法律や判決といった生の素材も（大きな負担にならない程度に）扱います。	本講義は、みなさんが法学をすでに学んだことも、今後専門的に学ぶことも前提としていません。「環境問題」や「法律学」に関心を持つ方を広く歓迎します。 学部学科問わず、各大学で学ばれたみなさんは様々な形で社会のしくみを設計し活躍していくことでしょう。そのときに法学的な見方の意義と限界とを意識できるようになるための、お手伝いができればいいなと考えています。	○		

《京都学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
近代京都と三大学	機	宗田　好史 ほか	前	京都と深い関わりをもつ歴史ある三つの大学で学ぶ学生さんのために、三大学が誕生した背景、京都の近代を語ります。そして、近代化過程で三大学が果たした役割を考えます。三大学の誕生と共に、京都では近代教育制度が確立し、産業が成長・発展してきました。これは、皆さんに身近な様々な町の記憶を再確認することにもなります。そこから現代社会での大学の役割を考え、学生さんと教員が、京都の地域社会と関わっていく意味を考えます。 三大学は、京都の産業・経済だけでなく、医療、教育、福祉に深く関わり、京都の企業や施設、社会、行政機関を発展させてきました。それぞれの大学の歴史と京都の町の近代史を学ぶことから、皆さんが暮らす京都の未来を展望してもらうようにお話しします。その中に、皆さん方自身の将来像を見つけ出してください。 三つの大学から講師の先生方が来られ、テーマに沿って順番に講義していきます。	京都の伝統ある三大学に入学された皆さんのために、三大学の 100 年以上にわたる歴史を分り易く学ぶ授業です。皆さんが、今後母校に誇りを持つと同時に、各地で活躍する数多くの先輩諸氏を知り、その功績を知ってもらいます。先輩の昔話や自慢話を楽しく聞ける基礎知識になります。そして、皆さん自身も優秀な先輩方に続き、京都や京都と関連する各地の人々、経済界や地域社会に貢献しようという意欲を持ってもらえる講義になると思います。			○
京の産業技術史	工	山田 由希代	後	京都にとって大きな転換期となった「近代」に注目し、染織、陶芸、絵画などの「美術･工芸」がどのような変容をとげて現代にいたっているのかについて、産業との関わりをふまえて講義する。	日本の文化や生活に深くかかわってきた美術・工芸は、伝統産業として長い歴史ある京都の独特な文化を支えてきたといえます。いまも私たちの暮らしの様々な場面に見ることのできる伝統産業を守り続けた人々の取り組みをふりかえることは、現代におけるものづくりや産業振興に役立つ要素の発見にもつながると思われます。		○	
現代京都論	府	大島　祥子	前	講義では、学び、暮らすまちである「京都」をより深く感じ、考える機会を提供します。京都の現代で起きている事象をテーマごとに考察し、京都の特性と課題を読み解き、未来のまちづくりを考えることを目指します。講義内容は、前半で現代の京都のまちづくりの基盤ともいえる、都市経営や庶民の暮らしやまちとの関わりの変遷（まちづくり史）を学習し、さらにまちづくりの基盤・組織、コミュニティについて学習します。これらをふまえた上で､後半では､テーマごとの事象を読み解きます。行政施策を取り上げるものが多いですが、NPO や民間事業者等が展開する事例、地域で展開される活動なども採用してテーマを深めていきます。	京都の歴史や自治の基盤を踏まえ、行政、市民活動、大学、企業など多様なセクターによる京都のまちづくりやその背景にあるものを学びます。今まさに京都で起こっている様々なテーマを取り上げ、解説します。講義を通じて、学び・暮らす京都をより深く理解し、京都により関心を持って自分の言葉でそれに対する見解をもって欲しいと思います。		○	
医史学	医	八木　聖弥	後	京都における医療の歴史を系統的に学習します。内容は医学理論や技術だけでなく、制度や施設、思想的背景など周辺領域も含みます。われわれが疾病に対してどのように対処してきたかをたどることによって、文化としての医の本質を考えます。	疾病との闘いは、人類にとって永遠のテーマです。最先端の医療も、過去の積み重ねのうえに立ちます。医療の歴史から未来への指針を学びます。	◎	○	
京都の経済	機	小沢　修司	後	本講義では、府内の企業をはじめ、企業や産業の育成を支援する関係機関・団体、自治体などからゲストスピーカーの方を招き、様々な立場から府内の経済・産業の現状や課題、経営環境の変化への対応や地域経済に果たす役割などをお話しいただきます。 こうした事例を通じて、京都の経済が抱えている課題とともに、企業や産業の育成にはどのような支援が必要であるのか、課題解決の方策について学ぶことを目的としています。	京都府内には、創業から 100 年以上続く老舗企業からベンチャー企業まで、様々な企業が活動しており、世界をリードする企業から数多くの小規模企業に至るまで , 京都に誇りと愛着を持った京都ブランドや京都商法と呼ばれる特徴を有しているのが京都の経済です。また北部の丹後地域から南部の山城地域に至るまで、各地域の歴史や自然環境などに育まれてきた様々な産業があることをご存じでしょうか。 本講義を通じて、学生の皆さんが府内の企業や産業に魅力を感じ、各地域への関心を高める契機になることを望みます。			○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分 A	授業目的区分 B	授業目的区分 C
現代社会に学ぶ問う力・書く力a・b（リベラルアーツ・ゼミナール）（旧リベラルアーツ・ゼミナールⅡ）”	機	児玉　英明	前	「高校での学び」から「大学での学び」へ転換するにあたって、不安を感じている1回生も多いだろう。本ゼミナールは、そのような1回生を対象として、「論文とはどのような文章なのか」といった初歩から始める。 大学での学びは、「聴く」ことや「読む」ことといった受動的な学びに、「問う」ことや「書く」ことといった能動的な学びが伴って、初めて完結する。本ゼミナールでは、「考えるという行為」と「書くという行為」の相関を論じた基礎的な文献を教科書にして、大学で学ぶためのリテラシー能力の向上に努める。テキストは苅谷剛彦（オックスフォード大学教授）が学部生を対象に、レポートの書き方をまとめた『知的複眼思考法』を精読する。 「『問い』を意識しながら読み、『問い』を意識しながら書く」という、すべての科目に共通する初年次教養教育を、少人数のゼミナール形式で展開する。	大学での学びは、自ら「問い」を立てることです。本講義では、自ら立てた問いについてレポートを作成し発表するという、書くという行為に重点を置いたアクティブ・ラーニングを展開します。 パソコンや図書館の使い方も含め、1回生を対象に初歩からレクチャーします。最初は小学生レベルの反論文の書き方から始めますが、最終的には東京大学など多くの大学で広く使われているロジカルシンキングの教科書を読みこなすレベルを目指します。 授業の後半では、「なぜ、トランプは大統領になれたのか？」という現代社会の問いに向き合います。テキストとして『ルポ　トランプ王国 －もう一つのアメリカを行く』岩波新書、2017年を輪読します。		○	◎
社会科学の学び方（リベラルアーツ・ゼミナール）（旧リベラルアーツ・ゼミナールⅢ）”	機	児玉　英明	後	日々の新聞で取り上げられるニュースの中で、何か気になっているテーマがあるだろうか。本ゼミナールは、文系であろうと理系であろうと、時事的な問題への知的好奇心を持っていて、教員や仲間と議論する力を身につけたい学生を対象とする。 社会科学の学び方とは、学生一人ひとりが「人生をいかに生きるべきか」を問うことであり、その生き方を問う問いが「自分がいま生きている社会をどう見るか」という社会認識を問う問いと不可分に結びついていることである。 本ゼミナールでは、古典として定評のある文献（吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫、1937年。丸山真男『日本の思想』岩波新書、1961年。）を、現代にひきつけて精読する。そして、社会科学のセンスを磨くために2本の映画（山田洋次監督『母べぇ』『学校』）を鑑賞し、多様な考えを持った受講生と語り合う。	大学に入学時、教授に次のように言われました。メートル単位で本を読め！田舎者の私は「メートル単位」という発想に、なぜか興奮を覚えました。1回生は、学問へのいざないとして、新書本をよく読みます。新書本などは、1冊、2冊買って読んでいるようでは不十分で、やはり「棚ごと買って読む」くらいの気迫がなければ、学問の本質には近づけないでしょう。 本講義では、教養教育の古典や映画を教材に使いながら、「教養教育の原理像と思想性」を学びます。 授業では、毎回、グループ・ディスカッションを行うことで、三大学の多様な学生と意見交換をすることができます。紅葉ハイキングをしたり、大文字山に登ったり、ゼミ以外でも楽しく交流しています。		◎	○
世界はいま（リベラルアーツ・ゼミナール）（旧アメリカと中国はいま（リベラルアーツ・ゼミナール））	機	脇田　哲志	集中・夏	経済・軍事の両面で急激に膨張し存在感を高める中国。先行きに不透明感漂う朝鮮半島。米中の狭間で揺れるアジアやアフリカ。民主化の挫折と紛争・テロ・人道危機が続く中東。グローバリゼーションと難民の波が大衆の反逆を招き統合の理念が揺らぐヨーロッパ。そして世界のリーダー役を放棄したかに見えるトランプのアメリカ、そして国際社会における日本の役割は？ この授業では、現代世界の最新の状況について、世界各国のテレビニュースなども素材にしながら、わかりやすく解説し、最新の国際情勢を具体的に理解することをめざします。そして、みなさんが生きていく21世紀のグローバル社会が、どのような課題に直面していくか、的確に把握し正しく判断していくための国際感覚を養っていきます。	担当するのは、NHKの中国総局長とアメリカ総局長を経験した国際ジャーナリストです。これからグローバル社会で生きていこうとするみなさんが、世界の動きをどう把握し理解すればいいか、みなさんと論議を重ねながら考えていきたいと思います。 集中講義を行う2019年夏の最新の国際情勢を取り上げますので、受講する方は、普段から国際ニュースに関心を持つようにしておいてください。		◎	○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
経営哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅨ) (2回生以上)	機	児玉　英明	後 (午前)	【前半：マーケティングの考え方】 前半11回は沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略　新版』有斐閣、2008年を精読します。扱うテーマは、「マーケティング・ミックス　4つのP」「ターゲット市場の選定　セグメンテーション」「製品ライフサイクル」「市場地位別マーケティング戦略」です。 【後半：マーケティング事例研究】 マネジメントとは、問題発見・問題解決の積み重ねです。本講義では、具体的なケース・スタディでビジネスの場面を想定し、学生に問題発見・問題解決の思考を追体験させることが目的です。後半4回は「ネスレ日本　ネスカフェアンバサダー」「パナソニック　電動歯ブラシ ポケットドルツ」「スターバックス、ドトール、セブンイレブンのコーヒーをめぐるポジショニング」「ヤマト運輸　ネット通販時代の物流」を扱います。 ※2回生以上を対象	民間企業に就職が決まったが、「経営学」も「マーケティング」も勉強したことがない4回生を歓迎します。これから就職活動を始めようとしている3回生、2回生の受講も歓迎します。 「経営学の考え方」を基礎から説明します。前提知識は不要ですので、理系の学生も安心して受講してください。 授業では、毎回、グループ・ディスカッションを行うことで、三大学の多様な学生と意見交換をすることができます。	◎		○

■人間と自然

《自然科学の基礎》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
物理学Ⅰ	府	伊藤　秋男	前	この講義では身の周り（から宇宙まで）で起きる様々な物理現象を支配している原理とその意味を理解することで、物理学的視点からの考える能力を養うことを目的としている。また、自然科学の基本となる単位や次元および簡単な物理公式を説明し、物理学で重要となる保存則などの概念についても講義する。 講義の流れとしては、自然科学における物理学の歴史を概観し近代物理学の成立までをガリレオ、ケプラー、ニュートン、アインシュタインなどの考え方とその業績について講義する。	科学技術の急速な進歩に伴い、先端技術を取り込んだ様々な機器が普及し、その恩恵を受けながらも、多くの人々にとって中身は不明（ブラックボックス化）となりつつある。 本講義を通してこういった日常的に目にする様々な事象について物理的・合理的に思考を重ねて追及するスタイルを身につけてもらいたい。	○		
化学概論Ⅰ	工	三木　定雄	前	高度な技術、資源、エネルギー、環境など、現代の社会を考えるに不可欠なキーワードのどれもが、物質と密接に関係しています。その意味で、物質を対象とする科学である化学は、現代社会で知識人たろうとするに、必須の素養といえます。この講義では、物質について理解が、どのように変遷し、今日での理解に至ったのかを、化学における歴史上のエピソードをなぞりながら学習し、それを通じて、“物質のなりたち”と“物質の変化”という化学の大きな輪郭を勉強したいと思います。	わが国では、“きたるべき受験への対策”に縛られがちな授業のあり方が、自発的な知識欲を減退させているのは否めません。軽重の差はあっても、皆さんは高校化学にふれてきたと思います。しかし、化学の面白味をふつふつと感じた人は、少ないかも知れません。大学に合格されたいま、そのおもしろさを再発見しながら、教養としての化学に触れていただければと思います。	○		
化学概論Ⅱ	工	石川　洋一	後	暗記するのではなく、大学生として感覚的に身につけておいて欲しい（物理）化学的な考え方が幾つかある。それは、「熱力学」と「量子化学」と、それらを基にした「化学反応論」である。しかし、高校のときに学んだ化学とこれらの考え方の間には、比較的大きなギャップがあるように思われる。このギャップを少しでも埋めるために、「サビと老化」、「クーラーの効率」、「視覚と色」といった身近な化学現象を挿話として織り込みながら、上記三つの考え方の概要を論述したい。	化合物名も化学反応式も覚えなければいけない。その複雑多岐性ゆえに化学は暗記に頼らなければいけなさそうに見える。しかし、物質を構成する粒子は”原子核”と“電子”であり、化学的性質は電子によって支配されているといっても過言ではない。この電子を理解することで、暗記に頼らず演繹的に化学を理解する筋道を示す。	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
生物学概論Ⅰ	工	疋田　努	前	自然科学の中で生物学が対象とする生物は、物理学や化学が対象とする物質とは異なっている。それはゆっくりと進化し、分化して多様化してきた。生物というものがどのようなものかを、性、寿命などの生物の特徴とその構造について解説する。そして、生物がどのように認識されてきたかを、博物学史から概観し、種とは何か、個体とは何かについても考察する。	生物学が対象とする生物はヒトを含んでおり、生物とは何かという問いは、ヒトは何かという問いにつながる。だから生物について知ることは、我々自身が何者かという問いに答えることになる。現代の生物学がヒトを含む生物をどのようなものと考えているかを学んでみよう。	○		
生物学概論Ⅱ	工	疋田　努	後	地球上には多様な生物がすんでおり、それらはただ一つの生物に由来すると考えられている。それらの生物がどのように分化してきたかをたどり、多様な動物群、なかでも、我々を含む脊椎動物の起源とその多様な動物群の特徴と進化について概観する。多様性を理解するには分類学と系統学が必要となるので、これについても説明する。	我々の周りにいる多くの生物にはどのような関係があり、どのように進化してきたかを見てみよう。我々が属する脊椎動物は海で生まれ、その一部が陸に進出してきたもので、ヒトも祖先となる魚類、両生類、爬虫類の特徴を残しています。	○		
生命科学講話	府	塚本　康浩 ほか	集中・夏	遺伝子、植物、動物や病原体の研究、さらにはそれらを基盤とした食品や医療への応用について学ぶ。教科書などでは見ることが出来ない教員が実際に行ってきた研究成果を実感し、生命科学研究の本質を「講話」という形で体験する。	生命科学の研究における生データや今後の将来性を、実際に手を動かして実践してきた研究者（教員）から感じ取って欲しい。さらに、生命科学の研究に興味を持って貰えたらと願う。	○	○	
地球の科学	工	酒井　敏	後	地球は太陽系の中で唯一、液体の水を持つ惑星として生まれ、進化を遂げて来た。水を持つことで、地球は他の天体と大きく異なる運命をたどることになった。 この講義ではまず、宇宙誕生から現在にいたるまでの歴史を振り返り、「地球誕生の物語」を解説する。後半は、「現在の地球環境」を維持する大まかなメカニズムについて解説する。 日常の生活とは全く違う視点から、ピュアな気持ちで地球を考えることで、「我々の地球」に対する認識は大きく変わるはずである。	世の中、真面目だけでは通用しない。高校までは、真面目に 100 点を目指せばよかった。しかし、状況が変われば、その点数そのものが無意味になる可能性もある。それが自然界の掟であり、人間社会もその中にある。地球と地球生命の歴史は、その事実を雄弁に物語る。これを知ることは、子供から大人への第一歩である。	○		○

《人間と自然・科学》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人と自然と数学 α	工	峯　拓矢	前	高等学校や大学初年次で学ぶ数学の題材は主として 19 世紀までに確立したものであり、中にはその考え方が 4000 年以上遡るものもあります。本授業ではいくつかの題材についてその起源にさかのぼって、元々の考え方に触れ、それらがどのような人の営みや自然との関わりの中から生まれて来たものであるか、それらが現代社会でどのような役割を果たしているかを理解していきます。 歴史的な資料等に基づいての講義と演習から成り、演習では、歴史上の元々の考え方に触れながら、現代数学やコンピュータ・テクノロジーなどで用いられている計算法についても学んでいきます。	この授業を通して、これまでに習ってきた一つ一つの数学的概念のルーツやそれを作り上げてきた人々の努力を知ることで、数学をより身近なものとして再発見してくれることを期待しています。 数学を苦手だと思っている人からもっと数学を使いこなしたいという人まで、幅広く受講して欲しいと思います。	○	○	○
人と自然と数学 β	工	朝田　衛	後	数学において大切なことは、数学的なものの見方とその深め方です。そのようなことを知る素材を、長い数学の歴史の中から、また色々な分野（代数、幾何、解析）からいくつか取り上げて、新しい見方とそれがどのように深められていったかを解説します。	高校までの数学では「近くを通ったが登らなかった山」に少し登るような内容で、数学的なものの見方を知る素材を取り上げます。「問題の解き方」「計算の仕方」も大切ですが、この講義ではそのような意識を少し弱めて、昔の人々が「どのような着想をしたか」という点に意識を集中させてその面白さを感じ取って欲しいと思います。	○		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
人と自然と物理学	工	萩原　亮 ほか	後	「物理」は、親しみのない現象や数式を操る、敷居の高い学問だと感じる人が多いのではないだろうか。しかし物理学は、太古より自然現象を見つめ利用してきた人間が、そこに潜む謎と規則性に気づき、見晴らしのよい理解を求めて築き上げてきた、‘分かる’学問でもある。本講義では、こうした物理学的な理解と応用が獲得される過程で活かされている考え方・方法論の特徴を紹介し、平易に解説する。 講義は、物理学を研究手段にしている複数の担当者が、それぞれ独自の切り口・視点をテーマに掲げて、様々な側面や分野を広く見渡す形で進める。 本年度のテーマとして、以下のⅠとⅡを予定している。 テーマⅠ：「物理現象を語る言葉と論理」（萩原） テーマⅡ：「最新の物理学とその活躍」（武田，一色）	物理学的な内容は、実は、数式だけで語ることができません。言葉が大活躍します。このことを悟ると、物理の書物が親しみ易いものに変わります。言葉を鍛えることが物理的の入門になる…この意外さを体験して下さい。 最新の物理学が活かされている場面とその発展の可能性を知ってほしいと思います。	◎		○
生物学的人間学	医	小野　勝彦 ほか	前	「人間」はさまざまな角度から眺めることが出来る。哲学的、文学的、社会的な観点から、などなど。理科系の視点からでも多様な見方(物理、化学などなど）ができるが、本講義では生物学的視点から理解しようとするものである。すべての生物は、細胞→組織→器官（臓器）→個体という階層性を持っている。この普遍性を土台として、生物としての人間の特殊性を見ていく。前半で、普遍性を求めて細胞レベルからの理解（さいぼうがくてき人間学）につとめ、後半では臓器・器官レベルからのアプローチ（かいぼうがくてき人間学）を、特殊性を考えつつみていく。	できるだけ誰でもわかるように細胞や器官を紹介していく。特に、世間で流布されている細胞や内臓や体に関する「うわさ」の類が本当かどうか、明らかになっている範囲で紹介する。３７兆ともいわれる細胞から成る自分の体を少しでも知りたい人に受講してもらいたい。また、頭の中にある細胞や体のイメージを、受講生の間で紹介しあう時間も持ちたい。 試験は少々こむつかしいかも知れない。	○		
科学史	工	大西　琢朗	後	科学の歴史は、事実や法則の発見の歴史であると同時に、それらを発見し確かめるための「方法」の歴史でもあります。現在ではそうした「科学的方法」こそが、知識の客観性を保証する絶対的な基準のように考えられていますが、じっさいにはそれらはある特定の時代の特定の場所で生み出された、歴史的で偶然的な存在でもあります。また、科学と言っても一枚岩ではなく、そこには異なる起源と発展経過をもつ複数の流儀（スタイル）が並存しています。この講義では、そうしたスタイルのいくつか（具体的には、確率、実験、統計）の歴史を概観し、それを通じて、科学の客観性と歴史性・多元性とのあいだの微妙な関係について考察します。	ひとは既存の枠組みを完全に離れてものを考えることはできませんが、歴史を学ぶことで、そこから少し自由になれるように思います。科学や数学についての知識はとくに前提しませんので、どうぞ気軽に積極的に授業に参加してください。	○	○	
環境問題と持続可能な社会	工	山田　悦	前	日本ならびに地球規模での環境問題の経過と現状を述べ、求められる持続可能な社会に向けての取り組み、特に私たちのライフスタイルの見直しの必要性について議論を深める。講義の内容としては、公害問題、地球環境問題、環境倫理、自然生態系の保全、持続可能な社会への取り組みなどを取り上げる。 また、受講生に環境問題を自分たちの問題としての当事者意識を持ってもらうよう促していきたい。	環境問題の全体像を把握した上で、環境問題の背景・原因を理解し、合わせて、自らの日常生活と環境問題のかかわりを知り、可能な限り環境問題を解決するために行動を起こしてほしい。特に、資源・エネルギー問題や自然共生社会への関心を深めてほしい。	○		○
食と健康の科学	府	東　あかね 食保健学科教員	前	テーマ：食と健康 日本人の食と健康の現状を栄養学、食品学、食品安全性学、食事学、健康科学の観点からオムニバス形式で概説する。 わが国及び世界の食と健康の今後の在り方について考察する能力を養うことを目標とする。	京都府立大学食保健学科教員による講義を行います。学生は、食と健康に関する知識を修得するだけでなく、良い食生活を実践する能力と、それを周囲に広げる能力を身に得ることを目的とします。関心のあるテーマについてレポートを作成し、最終回は輪読と討論を行います。	◎		○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
キャンパスヘルス概論	工	荒井　宏司	前	健康の意義を学び、肉体的、精神的な自らの健康を創造することをサポートする。 最新の医学に基づき、これから学生生活において、また社会に出てから遭遇するであろう様々な疾病に関する正しい知識を身に付ける。 誰もが一つずつ持っている「人体」は、すぐ手の届くところにある現代科学のフロンティアである。自らの身体で「科学する心」を学び、巷にあふれる誤った健康情報に対する耐性を身に付けることも目的とする。	これから始まる大学生活を実り多いものにするためには、まず諸君自らが健康であらねばなりません。この講義では、最新の医学に基づき、これから皆さんが出会うであろうさまざまな病気に関する正しい知識を身に付け、巷にあふれるトンデモ健康法に対する耐性を持ってもらおうと思っています。	○	○	○
時間生物学特論（3 回生以上〈修士課程大学院生を含む。〉）	医	八木田 和弘	集中・夏	生物は約 37 億年前に誕生してから地球の自然環境に適応することで繁栄を遂げてきた。その過程で、地球の自転により生ずる昼夜のサイクルを正確に予測するシステムとして、自らの体内に精巧な『時計』を作り上げた。この日周性変化を予測する生物装置が『体内時計』である。 バクテリアからヒトを含む哺乳類に至るまで、地球上のほとんどの生物に『体内時計』が備わっており、生体機能の『概日リズム』を発現させている。本集中講義では、体内時計の基礎から疾患との関連まで体系的に議論する。 ※ 3 回生以上（修士課程大学院生を含む。）を対象	『体内時計』ってなんだ？最近テレビや雑誌などでもよく目にするようになった『体内時計』。生命の神秘を感じる話題から、睡眠や食事のタイミングといった身近な話題まで、『からだの時間』を科学します。	○		○
エネルギー科学	工	林　康明	前	エネルギーの需給は環境問題と関連して人類の大きな課題となっており、総合科学として取り組んでいく必要がある。授業では主に、エネルギーの物理的な理解からはじめて、一次エネルギーとしての様々な発電方式や、二次エネルギーとしての貯蔵・輸送方法に関する工学について学ぶ。同時に、環境と生産活動を両立させるにはどのような手段を取るのが適当なのかについても考える。また、ものごとを科学的に捉えて事実を客観的に判断することとはどのようなことか、さらに人類の未来を考えたときに現代に生きる私達はどのような方向で進むのが適当なのかなどについても議論を行う。	産業革命以降、科学技術の発展とともに人類は豊かな社会を築いてきましたが、２０世紀後半から様々な課題が現れてきました。環境や安全と両立しながらエネルギーの供給・利用を進めていく方法について、いろいろな見方が世の中では交錯しています。こうした中で、客観的で公平な態度で臨むには、まず科学的に真理や事実を知って理解することが重要です。しかし、科学・技術の知識だけで明確な結論を出すことが難しい場合が多く、選択は私達に託されます。	○	○	○
現代科学と倫理	府	岩崎　豪人	前	現代科学にかかわる様々な倫理的な問題を考える。科学技術倫理の基本的な考え方を学びながら、現実の問題への倫理的な対応を考える。現代社会は科学技術の様々な恩恵を享受しているが、一方で、その危険性も顕在化し、科学技術に対する不安も大きくなってきている。身近な技術的製品のリスクから、社会を変えていく科学技術まで、根本的な所までさかのぼって、問題をとらえ直し、吟味、検討を行う。具体的な問題を取り上げながら、当たり前に思っていることが、実はそうではないことを認識し、社会への理解と自分への理解を深める。	講義形式で基本的な論点は整理しながら、具体的な問題を議論します。倫理的な問題を考えていくには、自分の感覚だけでなく、他の人の感じ方や意見も知りつつ、どうしていくべきかを考える必要がある。授業中に自分の意見を言えるように、積極的な授業参加を期待します。			○

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
医学概論 （2 回生以上）	医	奥田　司 ほか	後 （午前）	わが国で西洋と同等の高等医学教育が開始されたのは、明治維新のころ、東京帝国医科大学にくわえて、京都府立医科大学の前身である京都府医学校（京都療病院）を含めたいくつかの府県立の医学校が誕生して以降のことでした。今では、82 校の大学医学部 / 医科大学が存在し、医学の進歩に貢献するとともに国民保健・地域医療を支えています。本講は、京都府立大学と京都工芸繊維大学の 2 年次以上の上回生を対象とし、現代の医学部教育について紹介する目的で開講されました。基礎医学、社会医学、そして臨床医学の各医学科講義から抜粋した講義をシリーズ化し、歴史背景や最先端医学上の課題について概説します。もって、医学系以外の学生諸君に医学教育課程への理解を深めていただき、大学間の相互交流に寄与することをその目的としています。 ※ 2 回生以上の工繊大・府大生を対象	健康の増進や疾病の理解と制御を取り扱う「医学」は、人類が幸せな生活を追求するうえで必ずどこかで関係を持つことになる実学でもありますが、その実際を正式な教育機関で学ぶ機会はきわめて限られています。この授業では、最新の臨床課題や最先端医学研究に携わる医大の教員たちが、オムニバス形式でその取り組みをできるだけわかりやすく解説します。幅広い専攻分野の学生諸君の聴講を期待します。	○		

《京都学）

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の自然と森林	府	高原　光 池田　武文 中尾　史朗 平山貴美子 三好　岩生 松谷　茂	前	京都府の自然および環境問題などについて、リレー方式で講義を行う。 まず、京都府の自然の構成要素である地形や気候などについて解説し、現存植生との関係や森林の特徴、京都の代表的な植生などについて、また、鳥や昆虫と森との関係人との関わりによる歴史的な変遷などについて解説する（授業計画 1-9）。さらに、病虫害や鳥獣害、災害などによる森林の衰退などについて解説する（授業計画 10-15）。受講生は，これらの講義から，京都府の自然がかかえている様々な環境問題について，私たち自身の問題であることを，社会との関わりの中で考えてほしい。	この講義で取り上げたテーマは、日々、京都の新聞やテレビなどでも関連する話題が扱われます。それらを注意して読んだり見たりするとより深く理解できるでしょう。また、皆さんの身近なところで起こっている自然の事象を扱いますので、普段は気にしていないことに気づくきっかけになるかもしれません。講義で扱った身近な自然を実際に体験することは，さらに自然の理解につながることでしょう。	○		
京都の農林業	府	寺林　敏 ほか	後	わが国の農林業の概要とその中における京都の農林業の特徴とについて、リレー方式で概説する。 一千年以上もの間、都であった歴史的古都ゆえに、伝統的に蓄積されてきた技術と文化に基づく農林業と、新しい技術と生産方式の下で再編成される現代の農林業との 2 つの側面を明らかにして、長期的視点でわが国と京都の農林業を見つめ直すための教養を身につける講義である。	7 人の教員が担当する授業であり、全体像を理解するためには、復習が必要である。 成績評価は、各教員による小テストと出席状況に基づき行われる。	○		

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
京都の防災と府民	機	石田　昭人 松岡　京美 ほか	後	地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害など、個人では対処できない被害の脅威にさらされている日本において、防災、減災、生活再建、地域復興などの被災がもたらす問題の解決は公共政策の重要な課題である。これらの防災関連の対応策は、ハードからソフトまでを含む広い領域にわたる。防災はまさに学際的な領域であり、この授業は、災害の歴史、木造文化財の耐震、防災地図情報、災害時の看護、災害対応政策などの多彩な内容で構成される。京都府は、由良川や淀川水系の河川氾濫、花折断層、山田断層など多くの活断層、あるいは福井県の原発など、災害が府民にとって身近な問題であり、阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓がどのように生かされるかは重要である。この授業は、学際的な視点から自然災害の脅威とそれへの対応策を知る機会を学生に提供し、学生自らが考える契機となることを目標としている。	東日本大震災の生々しい記憶は私達の心に深く刻み込まれいますし、東南海地震の危険性も度々指摘されており、私達は心のどこかで大災害を意識してきたはずです。しかし、時間の経過とともにその意識は薄れ、ともすれば、大災害が明日は我が身に降りかかってくる可能性があるということを忘れがちなのではないでしょうか。この講義は、三大学教員をはじめとする色々な分野の専門家が、「防災」をキーワードに、いずれ襲ってくるであろう大災害の被害をいかに防ぎ、また減じることができるかを学び、また、一緒に考えていただこうという趣旨で企画しました。学生時代だけではなく、皆さんの将来へ向けて、是非とも受講していただきたいと思います。	○		◎

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧リベラルアーツ・ゼミナールⅧ)	機	石田　昭人	後	身近な製品の機能を切り口として、その背景となる物理・化学・生物学的な重要事項を理解し、最先端科学に触れることで、知的好奇心とグループ活動能力を育成する講義である。「硬い」、「光る」、「くっつく」、「伸びる」、「通す」、「分ける」、「吸い込む」といった機能を身近な製品や商品から探し出し、自らの手と頭を駆使して対象とする製品や素材の機能、その背景となる最先端科学について調査する。グループワークによる科学技術情報の収集と議論、発表の技法の修練を通して、受講者のポテンシャル向上はもちろん、三大学の学生が共に高め合う関係を創り上げていきたい。 文系理系学部学科を問わず、知識の獲得に対して強い快感を感じることができる意欲的な学生の受講を期待する。2 回生以上の受講も歓迎する。	メガネや保温マグカップは何で出来ている？と聞かれて「金属」、「プラスチック」しか出て来ないのでは？「ヒートテック」はどうしてあたたかいの？「縫合糸」、「人工靱帯」、「傷口にくっつかないガーゼ」は何でできてる？「光ファイバー」はどうやって光を運ぶ？「集成材」はどうやって作る？「水中コンクリート」ってどうして固まるの？皆さんは答えられますか？素材の名前や性質、製品機能の原理を知っていれば安心安全安上がりな生活ができますし、最先端の科学技術に触れることができます。こんな面白いことを放っておく手はありません。さあ、一緒に知の世界を探求しましょう。	○		○

《リベラルアーツ・ゼミナール》

科目名	大学	担当教員	学期	科目の概要	学生へのメッセージ	授業目的区分		
						A	B	C
意外と知らない植物の世界 (リベラルアーツ・ゼミナール) (旧意外と知らない植物の世界)	機	松谷　茂 ほか	後	多種多様な植物を、文系と理系の複数の教員がリレー講義を行うことによって文理横断の内容を多角度から展開し、植物に対する認識を新たに形成する。 文系ではイギリスの歴史・文化や日本の文化、とりわけ美術・文学に登場する文様を含めた植物表現について西洋と比較また、日本庭園や日本建築における植物について論考。理系では植物や植物園に関する知識、また人間生活との関係性から染料や薬草あるいは動物とのかかわりなどについて論考し展開する。大学に隣接し日本トップクラスの植物を保有する京都府立植物園を教育活動実践の場としてフィールドワークの観察を行い、植物の持つ不思議や謎を追及する中、その生きざまや死にざまについて思索する。 このような学習の過程では、共通の植物を介して教師と学生、あるいは学生同士の interactive な討論が期待できる。例えば植物を歴史・文化的観点から捉えた場合、時代・地域・社会によりその意味付けが変化していくことが理解できる一方、理系では、植物をサイエンスの対象として捉えるなど、文理の視点の違いを相互理解し、異分野の学生同士が交流しながら多角的な見方を獲得することにより、学問向上の発展につなげていくことを目指す。	[松谷] 植物観察の秘訣は、不思議と謎を感じること。『現場が教科書』、を実感しましょう。 [後藤] 私たちは動物です。植物との関わりを学習し、生物学的多様性を理解しましょう。 [野口] 身近にある植物にまつわる物語を知って、世界への扉をまたひとつ開こう。 [浦川] 1．衣服を染める天然染料の多くは植物由来です。天然染料について知ろう。 2．海藻と海草はちがうのか？ [市川] 写真を用いて様々な植物を観察してみましょう。見方のルールを決めて撮影することで普段は気づかない植物の一面が見えてくるかもしれません。 [井戸] 古くから日本では植物を象る美術作品が多く作られてきました。そのような形象の制作背景を探っていきましょう。	○	○	○
レーザで測る、創る、楽しむ (リベラルアーツ・ゼミナール)	機	播磨　弘	前	1950 年代の発明以後、レーザは著しい進歩を遂げ、社会生活に不可欠な基盤技術として確立した。ここではその歴史や動作原理を復習したあと、産業・日常生活の色々な分野でいまどのように活用されているか見てみよう、またその未来を予想してみよう。 ゼミ形式で講義を進める。受講生が自ら調査した結果をあわせて皆で対話しながら以下のようなテーマで楽しく学びたい：(1) 作り方…レーザはどんな光？ その歴史、原理と種類。(2) 情報を記録する、送る…DVD、スキャナ、光通信。(3) レーザで芸術…プロジェクタ、ディスプレイ。(4) レーザで工作…切削加工、3D プリンタ。(5) レーザで測る…顕微鏡、分光分析、3D 観測、天体・地球観察。(6) レーザと医療…手術と美容、医療。(7) 究極応用？…核融合、レーザ冷却、レーザ兵器。(8) レーザにかける夢。	レーザは発明以来、比較的浅い歴史にもかかわらず我々の日常生活の幅広い分野に深く入りこんできている重要な基盤技術です。この授業では毎回テーマを具体的に絞って、文系・理系を問わずどの分野の受講生さんでも、自ら調査して討論に主体的に参加できるような分かりやすい双方向の授業をめざします。	○		○